夏草 ――「おくのほそ道」から (3)

松尾 芭蕉

平泉

三代の栄耀一睡のうちにして、※大門の跡は一里こなたにあり。
奥州藤原氏三代の栄華ははかなく消え、一里ほども手前にある。
※秀衡が跡は田野になりて、※金鶏山のみ形を残す。
まづ※高館に登れば、※北上川、※南部より流るる大河なり。
北上川が見え、これは南部地方から流れる大河である。
衣川は※和泉が城を巡りて、高館の下にて大河に落ち入る。
和泉が城のまわりを流れて、高館の下で北上川に流れ込む。
※泰衡らが旧跡は、※衣が関を隔てて※南部口をさし固め、
衣が関を（前に）置いて南部口をさし固め、
夷を防ぐと見えたり。
蝦夷の侵入を防ぐためのもののようである。
さても義臣すぐつてこの城に籠もり、①功名一時の草むらとなる。
それにしても（義経が）忠義の臣をえりすぐってこの高館に籠もったが、
②「国破れて山河あり、城春にして草青みたり」と、
と思い、
笠打ち敷きて時のうつるまで涙を落としはべりぬ。
笠を敷いて腰をおろし、いつまでも涙にくれていた。

F　夏草や兵どもが夢の跡
夏草よ。かつてこの地で功名を立てた兵たちも、今ではそれが夢のようにただ草むらが広がっている。

G　卯の花に※兼房見ゆる白毛かな　曾良
真っ白な卯の花に、兼房の白髪がしのばれることだ。

※大門の跡…奥州藤原氏の館である平泉館の南大門の跡。
秀衡が跡…秀衡の館である伽羅御所の跡。平泉館の中心部。
金鶏山…平泉館西方の小山。秀衡が築き、山頂に金の鶏を埋めたという言い伝えがある。
高館…源義経の館の跡。
北上川…岩手県北部から宮城県に向かって流れる川。平泉で衣川が合流する。
南部…南部地方。岩手県盛岡市を中心とした地方。　和泉が城…秀衡の三男である忠衡の館。
泰衡らが旧跡…泰衡ら奥州藤原氏一族の館を広く指す。泰衡は秀衡から伽羅御所を継いだ。
衣が関…高館の西方にあった関所。　南部口…平泉から南部地方への出入り口。
兼房…義経の物語に登場する老臣で、最後まで義経に付き従った。

奥州藤原氏

平安時代後期、東北地方に勢力をのばした豪族、藤原清衡とその子孫を、**奥州藤原氏**という。奥州藤原氏は**平泉**を中心にさかえ、秀衡の時代には挙兵前の**源義経**が身を寄せていた。壇の浦の戦いののち、義経は兄・頼朝と対立し、奥州藤原氏のもとに逃れた。しかし、秀衡の死後、頼朝の圧力に屈した泰衡によって義経は自害に追い込まれ、泰衡もまた頼朝に滅ぼされた。

・奥州藤原氏
藤原清衡―基衡―秀衡―泰衡

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア　秀衡の館や金鶏山は、形を残していた。
イ　北上川は、南部地方から平泉に流れる。
ウ　衣川は、和泉が城の下で北上川に合流する。

〔　　　〕

(2) ――線①「功名一時の草むらとなる」の意味を選びなさい。

ア　戦いの功名も一時のことで、その跡はただ草むらとなっている。
イ　戦いの功名とは草むらのようなもので、無益なものである。
ウ　戦いの功名はここにある草むらのように、今でも残っている。

〔　　　〕

(3) ――線②「国破れて山河あり」は、漢詩「春望（しゅんぼう）」を思い起こしたものである。「春望」の作者を答えなさい。

〔　　　〕

(4) Fの句に含（ふく）まれる切れ字を書きぬき、句切れの種類をア～ウで答えなさい。

ア　初句切れ　　イ　二句切れ　　ウ　句切れなし

切れ字〔　　　〕　句切れ〔　　　〕

(5) Gの句に含まれる季語と、季語が表す季節を答えなさい。

季語〔　　　〕　季節〔　　　〕